

世界子ども救援キャンペーン 「見えない鎖 ハイチ・ドミニカ報告」



生き抜く姿、伝えたい——。「世界子ども救援キャンペーン」の連載開始から36年目の2014年、毎日新聞社と毎日新聞大阪社会事業団は5～6月の約1カ月間、大阪写真部・望月亮一記者と社会部・松井聡記者をカリブ海の島国ハイチとドミニカ共和国に派遣しました。

ハイチは19世紀初め、フランスから独立した共和制国家。しかし、クーデターが繰り返され国土は疲弊。2010年には30万人以上が死亡するハイチ大地震が起き、混乱に拍車をかけました。国民の大半が1日1ドル以下で生活する西半球最貧国。

取材班は、首都ポルトープランスのスラムで、親が養育できず、預けられた先でも学校にも通わせてもらえず、家事や労働を強制される「レスタブック(子ども奴隷)」と呼ばれる子どもたちを探し出して話を聞きました。またハイチに比べ裕福な隣国ドミニカ共和国では、ハイチから売られてきた子どもたちの姿を伝えました。



「僕は奴隷」 明かりを取り込む窓から、外を見つめるラルフ・ジャン・バプティスト君(13)。朝から晩まで叔母の家で家事に追われ、友達が行く学校に自分は行くことが出来ない＝ハイチ・ポルトープランスで2014年6月、望月亮一撮影

孤児院「女子活動センター」の部屋で顔を合わせて話をするミシアナ・ドメウスさん(左)とフリジニー・フランソワさん。「いやなことがあっても、一緒なら笑顔になれる」。地震で孤児となったが、今は孤児院のみんなが新しい家族だ＝ハイチ・ポルトープランスで2014年6月、望月亮一撮影

世界子ども救援金贈呈先一覧

2014年度の「世界子ども救援金」は「取材地助成」「公募助成」「継続支援助成」の3つの助成を行いました。

●「世界子ども救援金取材地助成」(ハイチ支援)3団体へ総額150万円を贈呈

- 1.ハイチ友の会
- 2.難民を助ける会(AAR)
- 3.CODE海外災害援助市民センター

●「世界子ども救援金公募助成制度」4団体へ総額120万円を贈呈

- 1.マナムニ母子寮関西連絡所(バン

グラデシュ・チッタゴンにあるマナムニ母子寮での子ども支援)

- 2.シエラレオネフレンズ(シエラレオネでの子どもたちの支援活動)
- 3.日本国際ボランティアセンター(アフリカ・スーダン、南コルドファン州での大規模紛争による避難民・難民に対する支援プロジェクト)
- 4.ネパール・ヨードを支える会(ネ

パールでのヨード欠乏症に悩む子どもたちへの支援)

●「世界子ども救援金継続支援助成」1団体へ30万円を贈呈

- 1.国連UNHCR協会(国連難民高等弁務官事務所UNHCRマリ難民支援)

東日本大震災被災者救援金

2014年度は3月末までに159件490万円が寄せられた。7月に第12次分300万円を、3月に第13次分200万円を日本赤十字社に贈呈。本団の寄託総額は4億6,027万2,718円になりました。

毎日希望奨学金

絵と題字・西原理恵子さん



東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児を支える「毎日希望奨学金」制度(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設)は発足4年が経過しました。

2014年3月14日付毎日新聞朝刊で「毎日希望奨学生を募集」の社告を掲載するとともに被災地の高校や大学などに直接照会をかけました。50人の応募枠に対して55人が応募。4月30日に奨学生選考委員会が開かれ、全員一致で55人に支給を決定しました。奨学生数は継続者と合わせて215人(高校生118人、短大・大学生68人、専修学校生29人)に。12月に1人退学者が出て、下記のとおり支出しました。

■2014年度

4月25日、215人に(4、5、6月分:6月25日支給の新規分含む)1,290万円を支給。

7月25日、215人に(7、8、9月分)1,290万円を支給。

10月24日、215人に(10、11、12月分)1,290万円を支給。

2015年1月23日、214人に(1、2、3月分)1,284万円を支給。1人退学

小計 5,154万円

■2013年度

・240人(最終数)5,766万円を支給

■2012年度

・188人(最終数)4,554万円を支給

■2011年度

・156人、3,744万円を支給

2011年4月からの合計支給額

1億9,218万円

2014年度毎日希望奨学金 市町村別高校生一覧表

- ・岩手県16校53人
大船渡市3校、13人、釜石市2校、11人、久慈市1校、1人、住田町1校、3人、陸前高田市1校、3人、宮古市3校、12人、山田町1校、6人、盛岡市4校、4人。
- ・宮城県29校60人

石巻市7校、19人、東松島市1校、1人、気仙沼市5校、12人、登米市1校、1人、南三陸町1校、2人、大河原町1校、1人、岩沼市1校、2人、名取市1校、1人、利府町1校、3人、涌谷町1校、2人、仙台市泉区1校、1人、若林区3校、5人、太白区1校、1人、宮城野区2校、6人、青葉区2校、3人。

- ・福島県3校3人
相馬市1校、1人、南相馬市2校、2人
- ・3県以外2校2人
埼玉県飯能市1校、1人、鹿児島県屋久島町1校、1人。

「8月豪雨災害救援金」 広島市などに贈る

本団は、広島市や京都府福知山市などで土砂崩れや浸水被害が出たことから2014年8月26日、毎日新聞紙面で「8月豪雨災害救援金」の募集を開始しました。2015年2月末までに1,112件1,701万円が本団に寄せられました。

9月22日に第1次分として広島市に1,000万円、日本赤十字社京都府支部へ100万円を贈呈。10月29日に第2次分として日赤兵庫県支部へ100万円、日赤徳島県支部へ100万円を贈呈。11月20日に第3次分として広島市へ350万円、12月26日に第4次分として29万円を贈呈。3月13日に第5次分として3万円を贈り、合計1,682万円となりました。

JR宝塚駅にシンシア銅像完成

身体障害者の生活を支える補助犬を法律で位置づける原動力になった介助犬「シンシア」の銅像が兵庫県宝塚市のJR宝塚駅改札前コンコースに完成し2015年3月14日、除幕式がありました=写真。

シンシアはラブラドルレトリバーの雌。1996年～2005年にシンシアが介助犬を務めた同市の会社員、木村佳友さん(54)は「銅像にまでなって光栄(JR渋谷駅前の『忠犬ハチ公』のような待ち合わせの名所になってほしい」と喜んでいました。

銅像は高さ約80センチ。宝塚市の理念「すべての人にやさしいまち」のシンボルとして設置しました。除幕式は命日(2006年3月14日)に合わせて開かれ、中川智子市長も出席しました。また、本団の「シンシア基金」の助成を受けた「宝塚補助犬支援の会」が寄贈した銘板も併せて設置されました。

木村さんはシンシアを連れて講演会や政府の検討会で介助犬の重要性を訴

え続けました。02年、飲食店や公共機関に介助、盲導、聴導の3種の補助犬の同伴受け入れを義務づける身体障害者補助犬法が成立しました。15年2月からは2代目のエルモに代わり3代目のデ이지が木村さんのパートナーを務めています。



「歳末たすけあい運動」報告

2014年度の「歳末たすけあい運動」を11月8日～12月25日に実施しました。「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」は11月29日～12月1日、毎日新聞ビル地下のオーバルホールで開催し、1,778万円の売り上げがありました=写真。歳末義援金912万円を加え総額2,690万円となりました。

売上金と義援金は児童福祉施設や団体に歳末慰問金として贈呈したほか、公募福祉助成や配食サービスの贈呈事業、被虐待児童のキャンプなど今後1年間の社会福祉事業の資金としても活用します。皆様のご協力に深く感謝いたします。



● 児童福祉施設の子どもたち 「夏休み職場体験」で毎日放送へ

児童福祉施設の子どもたちによる、「2014年度第1回夏休み職場体験」が7月30日、大阪市北区の毎日放送で行われました。社会福祉法人大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部と本団の共催。大阪府内の施設から11人の中・高校生らが参加しました。

午前中は、加藤康裕アナウンサーからニュースの裏側の話や、一つのニュースが出来上がるまでの過程について聞きました。また、ニュース番組「VOICE」を収録するスタジオに入り、実際に天気予報の原稿を読んだり、プロンプターと呼ばれる原稿を映し出す装置の仕組みを学びました＝写真。

午後は古川圭子アナウンサーから「正しい言葉遣いや美しい話し方について」教わりました。

情報番組「ちちんぷいぷい」の生放送も見学。子どもたちはモニターを食い入るように見つめ、テレビ局の放送現場を肌で感じました。



● 施設児童就職予定者 研修会開く

就職などで大阪府内の児童養護施設を巣立つ中高生を対象にした「施設児童就職予定者研修会」(大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、府社会福祉協議会児童施設部会、本団主催、シェラトン都ホテル大阪協力)が2015年2月7日、大阪市天王寺区の同ホテルで開かれました＝写真。

アフターケア事業部は昨年から13回にわたり弁護士や企業の協力で身近な法律、食生活、身だしなみなどをテーマに「自立生活技術講習会」を実施、その最終回に研修会を開きました。生徒たちは施設出身の先輩から実社会で生き抜くための知恵を学び、同ホテル担当者からテーブルマナーの指導を受けました。府警察音楽隊の華やかなドリル

演奏も楽しみました。

本団からは、読者らの寄付金を元に府内の卒業予定者103人全員に1人1万円の「就職祝い金」が手渡されました。各団体からも激励の言葉や「祝い品」が贈られました。



● 配食サービス車を滋賀県 野洲市の「しみんふくし滋賀 キッチンゆうゆう」に贈呈

本団は2014年8月29日、NPO法人「しみんふくし滋賀」(本部事務局・近江八幡市)が運営し、高齢者らに弁当を配達している「キッチンゆうゆう」(野洲市小篠原)に配食サービス車1台を寄贈しました。

贈呈事業は1999年から始まり、今回が28台目。

「ゆうゆう」は1995年から、野洲、守山、近江八幡の各市で、1人暮らしの高齢者らに地元野菜を使った手作りの弁当を週5日、1日70～90食届けています。

贈呈式で記念のキーを受け取ったNPOの嶋川尚理事長は「これまでは車が少なかったため、利用を断るケースもあった。今後、利用者の拡大に努めたい」と喜んでいました＝写真。



● 第44回毎日社会福祉顕彰

社会福祉の向上に尽くした個人、団体を顕彰する「第44回毎日社会福祉顕彰」(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団主催、厚生労働省、全国社会福祉協議会後援)の贈呈式が2014年10月8日、毎日新聞東京本社で開かれ、賞金各

100万円と賞牌が贈られました＝写真
右から順に。

・明石恒浩さん(ザ・ブラフ・メディカル&デンタル・クリニック院長)。

横浜市の地域の医療機関として1987年着任以来、文化の多様性の理解に努め言葉の壁に苦しむ外国人患者を分け隔てなく支えている。

・桐生清次さん(社会福祉法人七穂会理事長)。

新潟県新発田市で特別支援学校の教員を定年退職後、自ら授産施設の施設長に就任。3施設を新設したほか、障害者雇用への理解を得るために外部から多くの研修生を受け入れ、長年にわたり知的障害者支援を行った。

・岩田美津子さん(NPO法人てんやく絵本ふれあい文庫代表)。

大阪市で市販の絵本に手作業で点訳を付け、無料で貸し出す「てんやく絵本ふれあい文庫」を約30年前に開設。ボランティアの手作業で年間7,000冊を郵送する。出版社に働きかけて触って楽しめる点字絵本の出版も実現させた。



● 2014年度「公募助成金制度」 贈呈先決定

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や先駆的事業をする団体に一般公募で助成する制度です。2014年度は次の11団体に総額340万円を贈りました。

〈公募福祉助成金〉

5団体に総額120万円を贈呈

- ・おおさか教育相談研究所
- ・家庭問題情報センター大阪ファミリー相談室
- ・京都難病連
- ・ひだまりの丘
- ・和歌山県児童養護施設協議会

〈シンシア基金助成〉

2団体に総額100万円を贈呈

- ・日本介助犬協会
- ・兵庫介助犬協会

〈世界子ども救援金助成〉

1面下段参照

小児がん征圧募金 6団体に贈呈

毎日新聞の「生きる」キャンペーンに寄せられた「小児がん征圧募金」の贈呈式が2015年3月18日、毎日新聞大阪社会事業団でありました＝写真。

大阪、東京、西部の各社会事業団に寄せられた募金は毎年、患者支援や研究に取り組む団体に贈られ、今回で19回目です。本団からは総額90万円が京大病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」(京都市左京区)▽京都ファミリーハウス(京都市伏見区)▽日本クリクラウン協会(大阪市港区)▽近畿小児血液・がん研究会(吹田市)▽チャイルド・ケモ・ハウス(神戸市中央区)▽あいち骨髄バンクを支援する会(名古屋市千種区)の6団体に贈られました。



「白崎青少年の家」 野外活動キャンプ

大阪市の児童福祉施設で暮らす子どもたちに自然の中で、共同生活を楽し

んでもらう野外活動キャンプが2014年10月11、12日、和歌山県由良町の白崎青少年の家で開かれました。大阪市、同市児童福祉施設連盟、本団の共催で、天王寺区の四恩学園など11施設の小学6年生34人が参加しました。

1日目はゲーム大会や夕食のカレー作り、キャンプファイヤー。2日目は近くの浜の石を使ったクラフトをしました。普段の生活とは違う体験の中で、仲間との思い出をつくりました＝写真。



「第46回新春子ども大会」開く

児童福祉施設で暮らす子どもたちが集う「第46回新春子ども大会」(大阪市、同市児童福祉施設連盟、本団主催)が2015年2月1日、大阪市天王寺区の天王寺区民センターで開かれました＝写真。

市が管轄する10の児童福祉施設から約400人が参加、冬休みに練習した人形劇やダンス、太鼓演奏などを披露しました。

朝日放送のアナウンサーが司会進行を務め、京セラドキュメントソリューションズや大阪市子ども家庭センターの有志バンドなどがボランティアで出演。会場を盛り上げました。

ロビーには子どもたちが描いた絵画コンクールの作品約200点を展示、表彰式が行われました。

ロビーには子どもたちが描いた絵画コンクールの作品約200点を展示、表彰式が行われました。



名古屋市内3施設に 囲碁セット贈呈

本団は2015年2月5日、昨年11月に大阪市内で開いた「第47回歳末たすけあいチャリティー指導基金・棋力認定戦」(日本棋院・スポーツニッポン新聞社主催、本団後援)の収益金で製作した碁盤などを名古屋市の3カ所の児童養護施設に贈りました。

佐和宏士事務局長らが同市昭和区花見通2の駒方寮を訪れ、碁盤や囲碁を題材にした人気漫画「ヒカルの碁」全23巻などを柴田弘二施設長に手渡しました。柴田施設長は「子どもたちが漫画を読みながら、囲碁に興味を持ってもらえればと思います」と笑顔で話していました。

このほか、昭和区の名広愛児園と守山区の和進館児童ホームにも贈りました。

ご寄付の方法

■郵便振替でのお振り込み

郵便局に備え付けの払込取扱票(振替用紙)に金額、住所、氏名、連絡先などの必要事項をご記入のうえお振り込みください。送料(手数料)無料の払込取扱票(振替用紙)を必要な方は当事業団までご請求ください。

- 郵便振替口座番号 00970-9-12891
- 加入者名(送り先)
毎日新聞大阪社会事業団

■現金書留でのご送金

〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5
毎日新聞大阪社会事業団

*「社会福祉に」「希望奨学金」「世界子ども救援金」など寄付項目を通信欄に必ずお書きください。

*金額とお名前を毎日新聞の地域面に掲載させていただきま。匿名や掲載不要を希望される方は通信欄に「匿名」などお書きください。

■ご持参

直接、本事業団事務所へ。大阪市北区梅田3-4-5毎日新聞ビル16階。

平日は10時～18時まで受付(土、日、祝日は休み)。

■お問い合わせ先

公益財団法人

毎日新聞大阪社会事業団

〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5

電話 06-6346-1180

ファクシミリ 06-6346-8681

E-MAIL: mainichi-osj@sirius.ocn.ne.jp

ホームページ http://www.mainichi.co.jp/osaka_shakaijigyo/

毎日新聞大阪社会事業団へのご寄付は、所得税および法人税の優遇措置が受けられます。また、ご遺産、遺贈された財産についても相続税はかかりません。

編集後記 48

◆春、空前の利益を生み出した上場企業の賃金アップの話題の陰で、貧困などから育児放棄され、十分な教育を受けられないまま社会に出る少年少女がいます。

◆何人が仕事を持ち、税金を納め、社会人として独り立ち出来るのでしょうか。犯罪被害とも無縁では無く、政策課題として社会的な養護に注目が集まっています。

◆税金によるバックアップはもちろんですが、仕事や学びの場で、こうした子どもたちを見守る温かい眼差し。民間でなければ、出来ないことも多いと思います。(太)